【電子かわら版　チャペル・アワー　No.016：修業チャペル】 2020 年 7 月 28 日

★今週の前奏：Doreen Potter, BARONITA（「讃美歌 21」542 番～歌詞を味わいつつ）
https://www.youtube.com/watch?v=x4DPVFyatDo
★今週の聖書：ローマの信徒への手紙 15:7
★聖歌隊奉唱：「朝の光、闇をはらい」551 番 1,4,5 節
https://youtu.be/HOxCd3O2oFo
★今週の奨励者：岩田 雅明 学長
★今週の賛美歌：532 番「やすかれ、わが心よ」
奏楽者：牛込 絵梨香（キャリアデザイン学科 2 年）
https://youtu.be/BumachvkP44
★今週の後奏：J.S.Bach,「Vater unser im Himmelreich（天におられる私たちの父よ）」BWV737
奏楽者：星野 香乃 （コミュニティ子ども学科非常勤講師、学生オルガニスト・トレーナー）
https://youtu.be/c18VC-nZYzs
★今週の奨励者：岩田 雅明 学長
★今週のアート①【テーマに合わせて】：渡辺 総一、「イエスとザアカイ」
（新教出版社・月刊誌「福音と世界」1998 年 2 月号表紙として出版されたものと同様）
https://thelocalchurchpbo.org/host　より
★今週のアート②【賛美歌、及び後奏動画】：「キリスト教入門」の授業課題として提出された写真の中から、曲のテーマに適したものを選択。

★ メッセージ：「優しく生きることは強く生きること」
皆さん、今日が前期で最後のチャペルアワーになります。
前期、入学式は何とか出来たものの、その後は家庭での学習という変則的なスタイルを余儀なくされ、学生の皆さんも大変だったことと思います。これまでの皆さんの努力に対して、心から敬意を表したいと思います。

通常のチャペルアワーは 10 時 40 分開始なので、「おはようございます」の挨拶から始まります。日々の挨拶には、時間帯によって 3 種類のものがあります。「おはようございます」と「こんにちは」、そして「こんばんは」です。暗くなってきたら「こんにちは」から「こんばんは」に切り替わりますが、はっきりしていないのは「おはようございます」と「こんにちは」の切り替え時です。お昼になれば「こんにちは」ですが、午前中の何時からなのかは、明確には決められていません。

以前、企業等の社員にビジネスマナーを教えている講師の方から聞いた話ですが、3 つの挨拶の中で「おはようございます」が最も美しい言葉なので、できるだけ長く使った方が良い、具体的には 11 時まで「おはようございます」を使った方がいいとのことでした。それなので、新島短大では 11 時までは「おはようございます」を使っていきたいと思いますので、皆さんもよろしくお願いします。

皆さんも、小学校時代から挨拶をきちんとしなさいと教えられてきたと思います。でも、なぜ挨拶が必要かということについては、あまり教えられていない人も多いのではないかと思います。挨拶が大切なのは、きちんとした挨拶は相手にとって「あなたは私の大切な仲間です」という、相手の存在を認めるメッセージとなるからなのです。つまり、円滑な人間関係をつくるためには挨拶が非常に大切なことであり、そのために小さい頃からきちんとした挨拶をしなさいと

教えられてきたわけです。

相手の存在を認めることになる挨拶が、なぜ円滑な人間関係をつくるために大切なのかといえば、私たちには仲間が欲しい、自分のことを認めてほしいという欲求が強く存在しているからです。これらの欲求を、挨拶というたった一つの、しかも簡単な動作で充たすことができるのです。皆さんも挨拶の意味を踏まえて、キャンパスで出会う人たちに対して、ぜひ元気な挨拶をするように心がけてください。きっとキャンパスの空気感が温かいものに変わってくると思います。

今回の新型コロナウイルスの感染拡大という、私たちがこれまで経験したことのない状況の出現によって、学生同士、学生と教職員といった、この短大に連なる人たちと対面で挨拶をするという機会を奪われてしまいました。仲間が欲しい、自分のことを認めてほしいという欲求が充たされる機会が奪われてしまいました。人間にとって、大変に寂しい状況となってしまったわけです。

今回のような世界規模の危機という状況でなくても、これに似たような環境というものは、これから経験することがあるかもしれませんし、既に経験しているという人もいるかもしれません。自分のことを誰も理解してくれない、周囲の中で自分だけ孤立してしまっている、と感じるような状況です。

聖書の中に、このような言葉があります。「神の栄光のためにキリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに相手を受け入れなさい」（ローマの信徒への手紙１５：７）。 この言葉の意味は、私たちの救い主であるイエス・キリストは、私たちに欠点や罪があったとしても、そのままの私たちを受け入れてくれています。だから、私たちも同じように、お互いに相手のことを認め合い、受け入れなさいということです。

挨拶が相手を認め、受け入れるメッセージとなるといいましたが、エイチ・アイ・エス（HIS）という旅行会社を創設し、最近では経営が大変であった長崎県のテーマパーク「ハウステンボス」を立て直したことで有名な経営者、澤田秀雄さんが挨拶についてこのように言っています。「暗い人でも日ごろから大きな声で挨拶をし、前向きな言葉を使うようにしていれば、次第に考え方が楽観的になって、性格も明るくなります。実際、私はそうやって変わった人を何人も見てきました」と。

救い主イエス・キリストによって、自分の現在のあり方が認められ、受け入れられていることが分かると、私たちの心には安心感と平安がもたらされます。そして、神様に受け入れられている自分という存在を大切にするようになるとともに、同じように神様に受け入れられている周りの人たちをも大切にしたいという、思いやりの心、優しい心が与えられるようになってくるのです。

そうなってくると、お互いを認め合うという関係が生まれ、いつも感謝の心、思いやりの心を持って生きていくことができるようになるのです。そうなれば、エイチ・アイ・エス（HIS）の創業者である澤田秀雄さんが言っているように、人は良い方向に変わっていくことができるのです。

私たち一人ひとりが神様に認められ、受け入れられている存在だということを覚えて、自分のことも周りの人のことも大切にする、優しい心を持って生きていきましょう。そうすることが、この社会の中で、強く確かに生きていくことにつながっていくと思います。

【祈り】

神様、前期最後のチャペルアワーで生きることを考える機会を与えられ、感謝いたします。また、

神様が私たちを受け入れ、大切にしてくれていることを重ねて感謝いたします。私たちが、自分を認め大切にするとともに、周りの人をも認め大切にすることができますよう、お守りください。この感謝と願いを、イエス・キリストの名によってお祈りいたします。アーメン。

★今週の前奏：Doreen Potter, BARONITA（「讃美歌 21」542 番　歌詞を味わいつつ）

542 番は、「讃美歌 21」編集に際して、「現代的な賛美歌」のひとつとして新たに日本語で歌えるよう翻訳をして収録された賛美歌のひとつです。1990 年代に、特に英語圏の教会を中心に、Hymn Explosion（日本語で「賛美歌大爆発」と言う時があります）　と呼ばれる、新しい賛美歌創作の大ブームが起こりました。言葉も、賛美歌のテーマも、現代的な表現やテーマを扱い、音楽的にも 5 音階（ペンタトニック＝「民謡調（フォークソング）」と言われるもので、従来のヨーロッパ中心の「クラッシック音楽」とは違う風合いの音楽）や、和声も現代的な組み合わせが試されるようになりました。作詞のフレデリック・カーン（1929～）や作曲のドーリーン・ポッター（1925～1980）は、こうした「新しい賛美歌創作」の機運の先駆けとなった存在だと言えます。

542 番は、1974 年、世界教会協議会によって出版された *Cantate Domino* という歌集に、この組み合わせで収録され出版されたもので、どことなく懐かしい感じの「民謡調」の曲＝に仕上がっています。作曲のポッターは、この賛美歌の作詞を手掛けたフレデリック・カーンとは家族ぐるみの親しい間がらで、それぞれがスイス・ジュネーブの世界教会協議会本部で働いている時期には、同じ通りに住まいを構えるほどで、カーンの新しい詞にポッターの曲の組み合わせの曲は他にもいくつもあります。「讃美歌 21」では 244 番もそうです。

賛美歌の歌詞を一緒によく味わいながら聴いてくださったら、学長のメッセージへの良い導入になるかと思います。

★聖歌隊奉唱：「朝の光、闇をはらい」551 番 1,4,5 節

聖歌隊も 6 月から工夫して練習し、合唱を準備してくださいました。

551 番は歌詞も曲も決して「新しい」賛美歌ではありませんが（J.S.Bach【1685～1750 年】の時代と重なるので「バロック時代」の賛美歌です）、その時代を代表する詩人、フィリップ・フォン・ツェーゼン（1619～1689）の手になるもので、当時、有名な音楽家たちが曲を書いて賛美歌として歌われていたものです。「讃美歌 21」に収録されている組み合わせでの曲の作者・ヨハン・ゲオルグ・アーレ（1651～1706）も親子二代にわたってチューリンゲン州ミュールハウゼン市を拠点に活躍した教会音楽家で、彼が亡くなった後を継いで教会オルガニストの職に就いたのが 23 歳の J.S.Bach（バッハ）でした。

「学校」という項目に相応しく、私たちの学校の「教育のモットー」のひとつである「真理」の言葉も入った歌詞なので、チャペルでは頻繁に歌います。皆さんの愛唱歌になれば嬉しいです。

★今週の賛美歌：532 番「やすかれ、わが心よ」奏楽者：牛込 絵里香（CD 学科 2 年）

この賛美歌の曲は、「聴いたことがある」とおもったひとが多かったかと思います。この曲はヤン・シベリウス（1865～1957）による「Finland Awakes(合唱とオーケストラのための国民歌)」（1899 年）のテーマを使用しており、シベリウスはこの小品を基に交響曲「フィンランディア」（作品 26-7）も作曲しています。

歌詞は、カタリナ・フォン・シュレーゲル（1697 年～没年不詳）によって作詞され、1752 年にドイツ語賛美歌集 Neue Sammlung Geistliche Lieder に収録されました。当時は 6 番まである賛美歌でしたが、1855 年に英語に訳され、Be Still, My soul として 5 節に編集。現在の日本語

のこのヴァージョンは、1989 年版アメリカ合同メソジスト教会讃美歌集に拠っています。作詞家については名前以外は何もわかりませんが、この歌詞を書いたときに、作者がテーマとしていた聖書の箇所は、詩編 46：11「静まれ、私こそが神であると知れ。／国々に崇められ、全地において崇められる。」であったと言われています。

奏楽は、学生オルガニストのボランティア募集に応えてくださった牛込絵梨香さんが 7 月初めから 3 回、レッスンを受けながら練習して準備をしてくださいました。奏楽に合わせて歌ってみてください（最初の一回は前奏なので、2 回目から）。

奏楽音源のスライドショーに登場する写真の数々は、全て「キリスト教入門」の課題として提出された学生作品です。

★今週の後奏：J.S.Bach,「Vater unser im Himmelreich（天におられる私たちの父よ）」BWV737

奏楽者：星野 香乃 （コミュニティ子ども学科非常勤講師、学生オルガニスト・トレーナー）

ヨハン・セバスチャン・バッハ（1685～1750）は、バロック音楽、殊に宗教改革後のドイツ福音教会の音楽の「型」を完成させた音楽家といっていいでしょう。75 年の生涯で 1000 を超える作品を残し（オルガン曲、合唱、器楽曲、オラトリオ等・・・）、空の作品は「BWV」という整理番号で作曲年代順に整理されています（教会音楽だけでなく、一般の娯楽に供するものも沢山書いています）。

今週の後奏に準備していただいたものは、「コラール前奏曲」と言われる種類のオルガン曲で、ドイツ福音教会の賛美歌で、会衆（礼拝に集まった人たち）が一緒に歌う「コラール」と呼ばれる賛美歌のメロディーを題材に作曲された「変奏曲」と考えてください。通常は、礼拝の前奏として演奏され、会衆がみな、「あ、今日はあの賛美歌を礼拝のなかで歌うんだな」とか「この前奏曲が演奏されたら、季節はクリスマス（或いはイースター）」などと教会の礼拝と一体となってドイツの人たちに親しまれる音楽となりました。

バッハ自身が同じタイトルでいくつか別のヴァージョンをオルガンのためにも書き、同じメロディーを合唱曲やオラトリオなどの大きな作品の中でテーマとなる旋律としても利用しています。コラールとしては、マタイによる福音書第 6 ：9～13・ルカによる福音書第 11：２～４に収録されている「主の祈り」（イエスが弟子たちに、「このように祈りなさい」と教えた）と呼ばれる箇所を、宗教改革者・マルティン・ルター自身が賛美歌で歌えるように整えた（パラフレーズ、といいます）歌詞に曲がつけられたものです。「讃美歌 21」では 63 番。

宗教委員会では、学生オルガニストーボランティアを募集しています。学科、学年は問いません。月一回ほどのペースで、「学生オルガニストが奏楽を担当するチャペル」を準備し、何人かで賛美歌奏楽や、前奏、後奏　などを分担する方式を考えています。週に一回、学生オルガニストのグループレッスンを受けて準備をします。やってみたいと思う人は、山本まで、メールで連絡をください。　yuki-yamamoto@niijima.ac.jp

★今週のアート①【テーマに合わせて】：渡辺 総一、「イエスとザアカイ」

（新教出版社・月刊誌「福音と世界」1998 年 2 月号表紙として出版されたものと同様）

作家の渡辺総一氏は、1949 年宮城県石巻生まれ。’72 年東北学院大学卒、’82 年御茶の水美術学院卒。’82 年から絵画教室主宰。1997～2009 年まで『福音と世界』表紙画連載。日本美術家連盟会員、アジア・キリスト教美術協会会員、日本基督教団大宮教会会員。

この作品はルカによる福音書 19：1～10 の物語（ザアカイという徴税人の頭とイエスの出会いの物語）を題材にしたもの。聖書の物語も読んで見てください。イエスにそのままに受け入れられたザアカイが、「立ち返って」、神さまに向かって歩む人として「新たにされ」、和解と、日々の「支えあう生活」へと押し出されてゆく物語。

今日のメッセージのために読んだ聖書の箇所とも響きあうでしょう。

★今週のアート②【賛美歌、及び後奏動画】：「キリスト教入門」の授業課題として提出された写真の中から、曲のテーマに適したものを選択。